

October 2026

内定者の声

環境省・総合職事務系

試験対策から
官庁訪問のアドバイスまで

令和9年度内定者一同

岐阜県白川村, 2024年9月

目次

1. <u>内定者統計</u>		3
2. <u>内定者プロフィール</u>		8
3. <u>試験対策</u>		20
4. <u>官庁訪問</u>		26
5. <u>座談会</u>		39
① 就活の進め方：既卒編		40
② 就活の進め方：地方学生編		42
③ 訪問者カードの書き方		44
④ 就活と学業・課外活動との両立		48
⑤ 志望理由：迷いと決め手		51

1. 内定者統計



富山県 立山, 2024年9月

● 在住地（官庁訪問時）



内定者は10名です。今年は首都圏が多いですが、地方出身者が多い年もあります！



都道府県	人数
埼玉県	1
千葉県	2
東京都	4
神奈川県	1
滋賀県	1
大阪府	1

● 最終学歴

学部卒

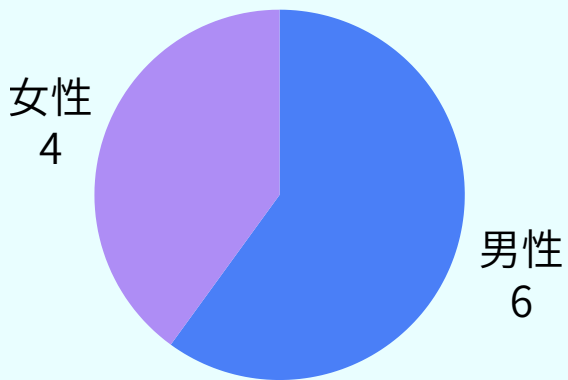
大学	学部	人数
大阪公立大学	法学部	1
国際基督教大学	教養学部	1
東京大学	教養学部	1
一橋大学	法学部	1
法政大学	人間環境学部	1
早稲田大学	政治経済学部	2

院卒

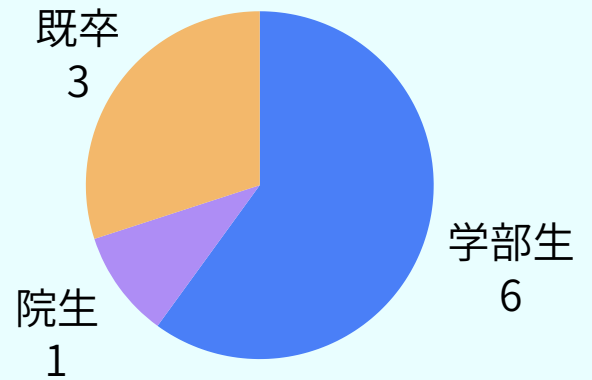
大学院	研究科	人数
京都大学	農学研究科	1
東京大学	公共政策大学院	1
	法科大学院	1



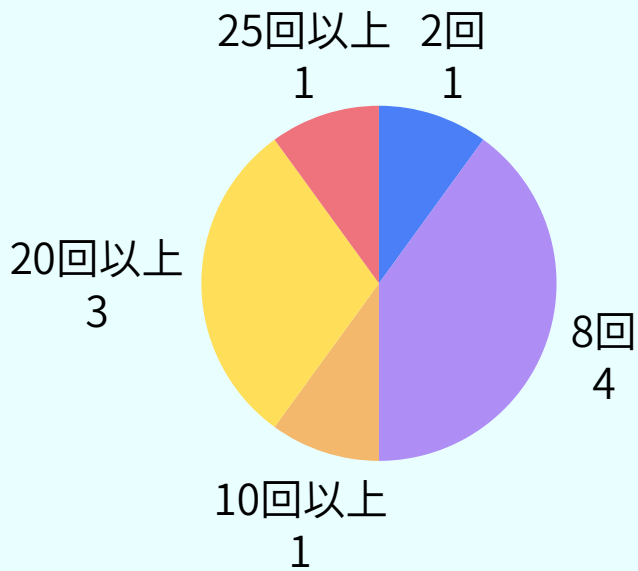
● 男女比



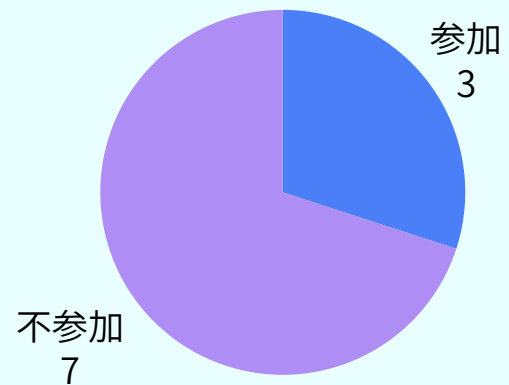
● 学年（官庁訪問時）



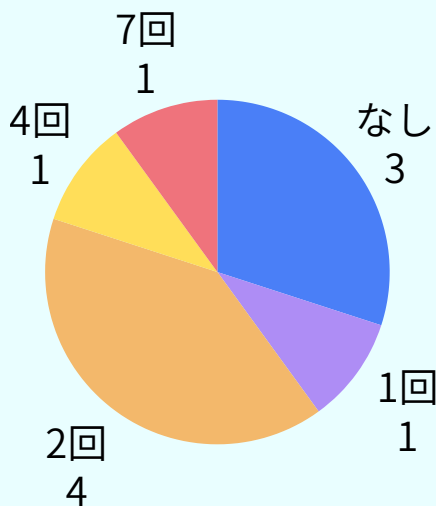
● 説明会等への参加



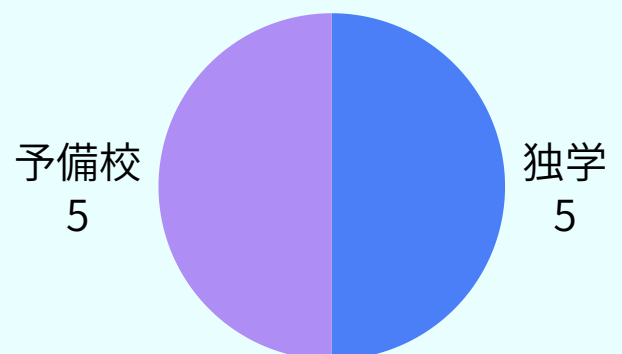
● インターンへの参加



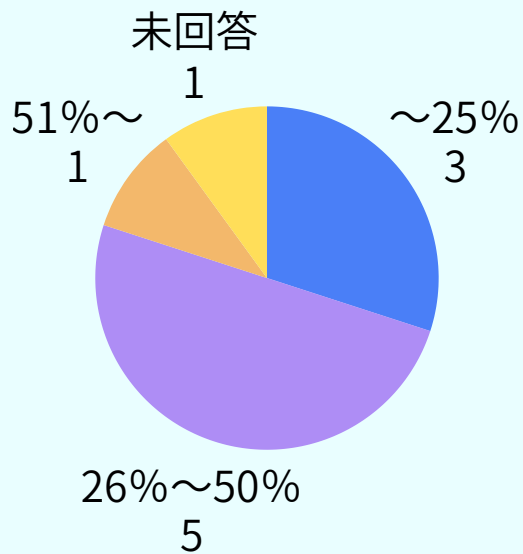
● 職員訪問の有無



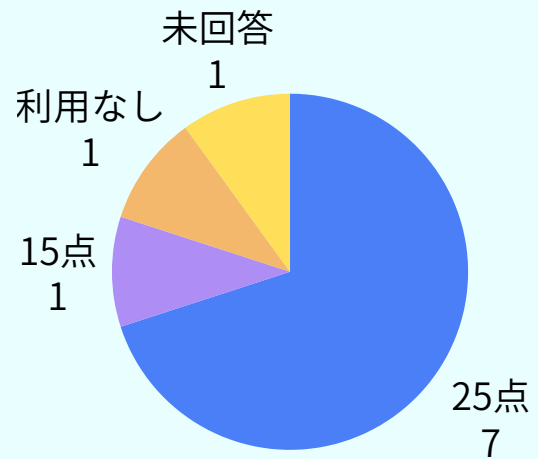
● 勉強方法



● 席次



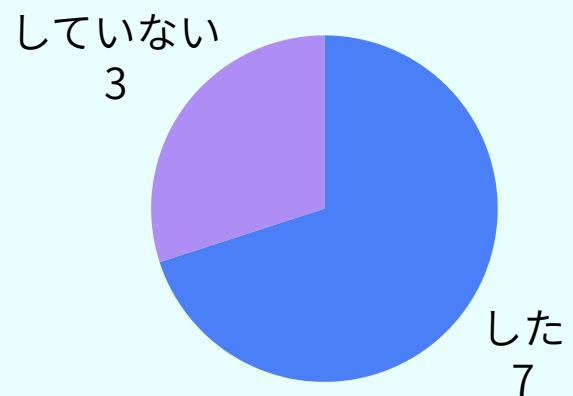
● 英語加算



● 他の公務員試験



● 民間就活



● 民間の併願先

- ・ 政府系機関
- ・ 金融（政府系）
- ・ コンサル
- ・ シンクタンク
- ・ 金融（民間）
- ・ 商社
- ・ メーカー

- ・ 農業
- ・ 食品
- ・ インフラ
- ・ ゼネコン

など様々です！



● 官庁訪問先



省庁	1日目	2日目	3日目
環境省	6	4	0
財務省	2	0	0
農林水産省	1	1	0
厚生労働省	1	0	1
経済産業省	0	2	0
国土交通省	0	1	0
防衛省	0	1	0
総務省（ICT）	0	0	1
総務省（自治）	0	0	1
内閣府	0	0	1
防災庁	0	0	1
なし	0	1	5

2. 内定者 プロフィール



長野県 上高地, 2024年9月

小野妹子

京都大学・農学研究科

専攻：生物資源経済学

出身：滋賀県

試験区分：教養（秋）



就活の軸：公益性、環境・食関連

ガクチカ：農業サークル

興味ある環境政策：気候変動対策、生物多様性保全

志望動機：

農業サークルの活動を通じて各地の農家を訪ねる

→ 気候変動の影響が身近なところまで及んでいることを実感

→ 待ったなしの環境問題の解決に政策面から貢献したい



京都のお気に入りパン屋



1. たま木亭（宇治）

2. カッシーニ（左京区）

3. ワルダー（中京区）

藤原鎌足

東京大学・教養学部

専攻：文化人類学

出身：神奈川県

試験区分：教養（春）



就活の軸：公共性、長期的な目線で社会に貢献できること

ガクチカ：部活、学業

興味ある環境政策：資源循環、環境経済、福島復興

志望動機：社会や技術の進歩に伴う負の側面に向き合い、取り残される人を無くしたい。豊かな生活環境を未来世代に引き継ぎたい。

個人的に行きたい自然

1. 滝

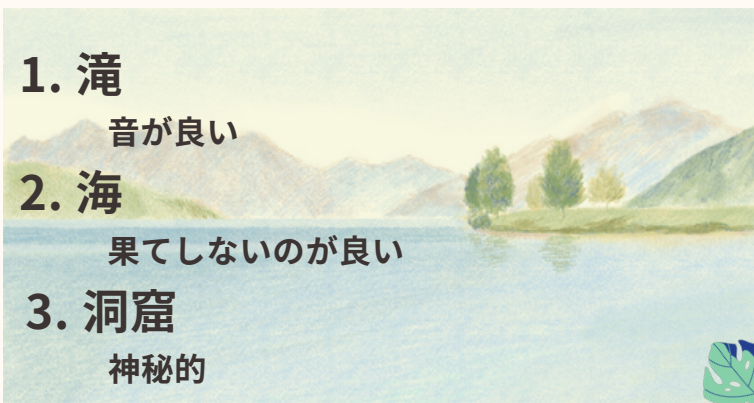
音が良い

2. 海

果てしないのが良い

3. 洞窟

神秘的



北条政子

法政大学・人間環境学部

専攻：環境政策

出身：千葉県

試験区分：政治国際人文



就活の軸：環境問題の解決に資する仕事か

ガクチカ：サークルでの役職経験

興味ある環境政策：生物多様性、福島復興

志望動機：

幼少期から自然や生物と関わる機会が多く、環境問題に関心があった。環境に関わる仕事は色々あるが、①法政策という手段を用いること②一貫して環境を追求できること③職員の方に魅力を感じたこと等から環境省を志望。

オススメの旅行先ベスト3

1. 北海道 知床半島

圧倒的大自然!!

2. 東京都 三宅島・御蔵島

人生で一度は見たい野生のイルカ

3. 沖縄県 西表島

海もよし、ジャングルもよし



蒲生氏郷

早稲田大学・政治経済学部

専攻：比較政治学

出身：東京都杉並区

試験区分：政治国際人文



就活の軸：公務員一本！！

ガクチカ：サークルでの幹事長経験

興味ある環境政策：福島復興再生、環境保健行政、原子力防災
地域における脱炭素・資源循環・生物多様性

志望動機：福島復興再生に関するワークショップに参加し、被災地の方々の声に誠実に向き合おうとする環境省職員の姿勢に感銘を受け、自らも環境省職員として同じ仕事を担いたいと考えました。また、社会の様々な側面に対して働きかけを行うことができる環境省の幅広さにも魅力を感じています。

個人的好きな官庁キャラクターランキング

1. だいだらポジー（環境省）

2. くるみん（厚生労働省）

3. カンピィ（農林水産省）



茶々は、
私が歴史好きになった
きっかけの人物です

茶々（淀君）

国際基督教大学・教養学部
専攻：グローバル研究（専攻）
開発学（副専攻）
出身：神奈川県
試験区分：教養区分（秋）



就活の軸：社会をより良くすることに貢献できるか

ガクチカ：オーケストラサークルの運営経験
（サークル長を務めていました）

興味ある環境政策：気候変動対策、資源循環、国際連携

志望動機：

複合的かつ地球規模の課題であり、企業や地方自治体の取り組みだけでは根本的な解決が困難な環境問題に、国家として正面から取り組みたい。

好きなミュージカルTop 3：

1. Les Misérables

懸命に生きる人々の姿に勇気をもらえるだけでなく、私の人生を変えてくれたミュージカルです。

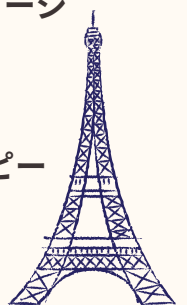
2. Anastasia

きっとあなたも Home, Love, Family を探し大事にしたいくなる、名曲揃いのハッピーミュージカル。

3. Love Never Dies



『オペラ座の怪人』の続編。ストーリーは思うところがない訳ではないものの、音楽と舞台美術が素晴らしいというだけでおすすめできます。



松尾 芭蕉



大阪公立大学・法学部法学科

専攻：行政法・行政学

出身：大阪府

試験区分：教養区分（秋）



就活の軸：長期的な課題に取り組めること

ガクチカ：大学から始めたテコンドー アルバイト

興味ある環境政策：福島復興再生事業

志望動機

福島の中間貯蔵施設を見学したことを機に、正解が簡単には見つからない・解決への道のりを手探りで考えていくような課題にキャリアを通して関わってみたいと考えるようになった。そこから国家公務員に興味を持ち、インターンシップへの参加や職員の方にお話を伺う中で、環境省こそ最も働きたいと思える場所だと感じ、志望した。

好きな曲

1. Dear Boy Avicii
2. Pizza Martin Garrix
3. Find You Zedd



行ってみたい国ベスト3

1. 南極（?）
2. アルゼンチン
3. ウズベキスタン



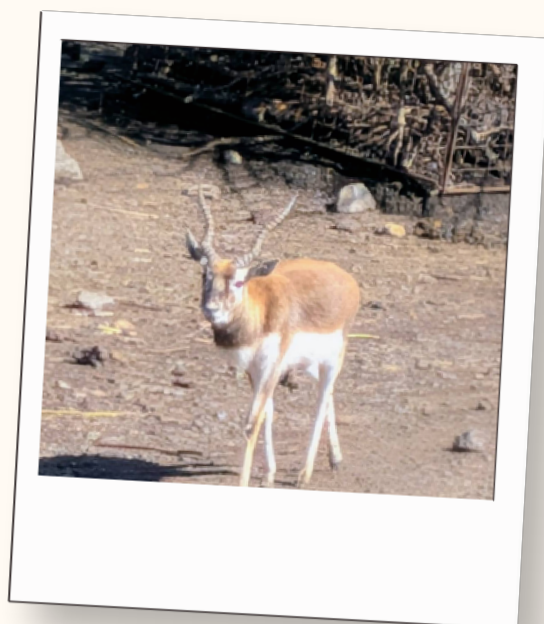
渋沢栄一

一橋大学・法学部

専攻：行政学

出身：千葉県

試験区分：教養(秋)



就活の軸：サステナビリティの社会実装

ガクチカ：サークル活動

興味ある環境政策：GX、地域脱炭素

志望動機：将来目標たる「サステナビリティを社会実装し、持続可能な社会を次世代へ引き継ぐ」ことを達成する上で環境省が最適だから。環境改善を成長の制約ではなく、新たな原動力へと転換することで、持続可能な社会基盤を構築したい。



好きな変化球ランキング

1. シュート
2. 縦スライダー
3. チェンジアップ



本多 静六

東京大学大学院公共政策大学院
専攻：MPP/IP 国際関係公共管理
出身：東京都町田市
試験区分：院卒行政



就活の軸：次の世代により良い社会を残したい。

ガクチカ：留学、学生自治会副会長、政策コンペ

興味ある環境政策：福島復興、地域脱炭素、国際環境協力

志望動機：「声なき声を政策に反映する」という環境省の役割に魅力を感じ、志望しました。公害や福島の復興など、環境省がこれまで向き合ってきた課題に加え、自然環境や将来世代の利益など、声を上げることのできない存在にも目を向けられる仕事だと考えています。小さな声にも耳を傾け、社会に必要な政策を粘り強く実現していきたいです。

最寄駅にあったら嬉しいファストフード店

1. てんや
2. かつや
3. サイゼリヤ

小津安二郎

東京大学・法学部→法科大学院

専攻：国際法、社会保障法

出身：埼玉県

試験区分：院卒・行政区分



就活の軸：公共性、自然科学分野との関わり

ガクチカ：宇宙系サークル、法律相談サークル

興味ある環境政策：気候変動対策、海洋プラスチック汚染対策

志望動機：

将来世代へ豊かな環境を残し、持続可能な社会を実現したいと考えた。環境省ならば、国内外の幅広い分野で、社会全体に影響力のあるルールや仕組みを作り、人々の生活を支える仕事ができると思った。

最近読んで気に入った本

1. 『読んでいない本について堂々と語る方法』 ピエール・バイヤール
2. 『反＝日本語論』 蓮實重彦
3. 『すべて真夜中の恋人たち』 川上未映子





竹下登

早稲田大学政治経済学部

専攻：政治学(国際政治)

出身：東京都杉並区

試験区分：教養(春)

就活の軸：日本の良さを後世に継承する、社会をより良く変える

ガクチカ：アルバイト

興味ある環境政策：生物多様性、地域脱炭素

志望動機：

地理の授業が好きで、環境問題に関心があり、それに全国規模・全世界規模で携われることから、環境省を志望しました。

好きなキャラクター

1. プーさん
2. むちころばんばん
3. キイロイトリ



かんきょうだより

vol.1

座右の銘

無知の知

塞翁が馬



明日死ぬかのように生き
永遠に生きるかのように学べ
ガンディー

話せばわかる。

何事も経験



やらない後悔よりやる後悔

挑戦は道を拓く

ベクトルを合わせる

賢くゆっくりとだ。駆け出す者は転ぶもの。

(戯曲『ロミオとジュリエット』より)

誠実に生きる

3. 試験対策



千葉県鴨川市 大山千枚田, 2026年7月

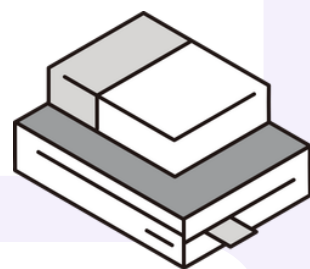
試験の概要と区分

国家公務員総合職試験には、自身の強みに合わせて選択できる複数の試験区分が用意されており、その幅は年々広がっています。



教養区分

- 幅広い教養と企画提案力、討議力を測る試験。近年受験者が急増。
一次試験は、教養科目Ⅰ部(文章理解、数的処理)30題と、
- 教養科目Ⅱ部(数学、化学、物理、日本史、世界史、倫理、時事等)40題からなる。
二次試験は、企画提案試験(政策のプレゼンテーション)、
- 政策課題討議(グループディスカッション)、人事院面接が課される。
19歳から受験可能で、2026年度から春・秋の年2回実施されるようになり、現役で大学に入学した学生は在学中に最大6回の受験が可能に。



専門区分

- 大卒程度試験の総合職事務系では、法律区分、経済区分、政治・国際・人文区分がある。
- 院卒者試験の総合職事務系では、院卒(行政)区分がある。
- どちらも1次試験では教養科目と専門科目が出題され、2次試験では専門科目の記述に加え、人事院面接等が課される。
- 大学で学ぶ専門知識を活かすことができる。

※詳細は人事院のホームページをご確認ください。

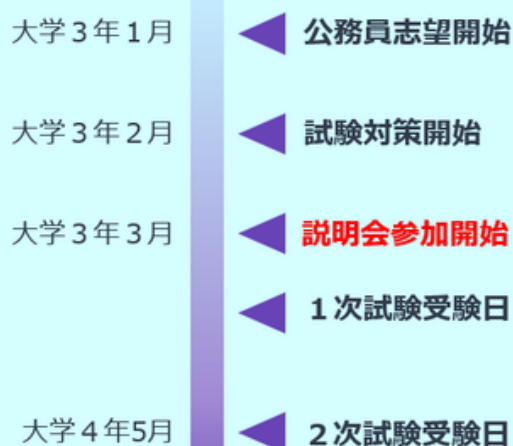
試験対策例 教養区分

内定者が実践した教養区分における試験対策の具体例とスケジュール感をご紹介します。



教養区分(春)合格 Aさんの対策例

○スケジュール



○具体的な勉強方法

・1次試験

短答問題は、過去問を解いて形式に慣らしました。勉強を始めたのが遅かったため、特にⅡ部の方は、大学受験で使用した科目に絞って勉強しました。総合論文も過去問を5年分ほど解きました。直近2年分は実際に論文を書きましたが、残りの分は答案構成だけ行いました。

・2次試験

政策討議は予備校の模擬に2回参加しました。人事院面接は友人と練習をしました。企画提案は白書を読み込み、想定される問題点とその解決策を、考えられる範囲で全て考えました。面接も企画提案も、回答文のようなものは作らず、応用が効くように、要点を押さえるように意識しました。

他の内定者はこんな対策をしていました！

実際にした試験対策

- 過去問や数的処理の問題集を時間を測って解く。
- 大学受験で勉強していたことの復習。全ての範囲を勉強するのは難しいので、試験で思い出すためのフックを作る気持ちで。
- 白書を読んで企画提案試験に向けた知識のインプットと政策作り。
- 予備校や民間就活など様々な機会を活用し、面接やGDに慣れる。

やっておけばよかったと思う試験対策

- 企画提案試験のプレゼンを人に見てもらう。
- 時事問題をもっと幅広く深く見ておけば良かった。



試験対策例 政治国際人文区分

内定者が実践した大卒・政治国際人文区分における試験対策の具体例とスケジュール感をご紹介します。



大卒 政治国際人文区分合格 Bさんの対策例

○スケジュール



○具体的な勉強方法

・1次試験

とにかく勉強を始めた時期が遅かったので、短時間で効率的に得点を伸ばせる範囲を集中的に学習しました。たとえば数的処理の中でも、これまで似たような問題を解いたことがあって解法を思い出しやすい問題を中心に練習しました。また、逆に政治学ではこれまで学んだことのない分野を中心に学習しました。

・2次試験

1次試験までは大半の時間を1次試験対策に費やしていたので、1次試験後に急ピッチで準備しました。自分は政治学と国際関係で論述を書く予定だったので、試験で出そうなトピックを予想して模擬答案を作成しつつ、周辺知識を復習していました。また、面接対策では一貫性を重視して内容を作成し、友人に聞いてもらいながら修正を加えていました。

他の内定者はこんな対策をしていました！

実際にした試験対策

- 過去問をひたすら解く。
- 専門記述は時間を計って解く練習をする。
- ミクロ経済・マクロ経済は確実な得点源になるので捨てずにしっかりと対策する。
- 国際関係は世界史の復習とセットで勉強する。

やっておけばよかったと思う試験対策

- 数的処理をもっとやっておけばよかった。
- 試験当日、事前に勉強した科目に拘りすぎないことが重要。(不安になったら5割でも良いので確実に取れる科目に方針転換する。)



試験対策例 院卒行政区分

内定者が実践した院卒・行政区分における試験対策の具体例とスケジュール感をご紹介します。



院卒 行政区分合格 Cさんの対策例

○スケジュール



○具体的な勉強方法

・1次試験

教科書で1から知識を入れるのではなく、最初から過去問を解いて解説を読みながら学習していました。教科もそれぞれ時間をかけようと思うと際限がないので、一度で覚えられないことを前提に、とにかくスピード重視で回しました。

・2次試験

行政学に関する本は一次試験の前から読み始め、一次試験終了後に過去問に取り掛かりました。毎回文章で答えを書くのではなく、箇条書きでその設問に答えるための知識があるか確認し、足りなければ調べて覚えるようにしていました。

他の内定者はこんな対策をしていました！

実際にした試験対策

- 法律選択だったので、学習の際には常に六法の条文に印をつけ、確認するようにしていた。憲法は特に判例を読み込んだ。
- 1次試験前の段階で、2次試験の論述もある程度書けるように早めに準備しておいた。
- 専門記述では、大学の定期試験や司法試験とは異なり六法の持ち込みが不可なので、重要ないくつかの条文は覚えた。

やっておけばよかったと思う試験対策

- 行政法の択一で、細かな条文も問われたのでもう少ししっかり準備しておくべきだった。
- 政策討議の練習として省庁のWSに参加すればよかった。



公務員試験に臨む皆様へ

試験中に不安にならないよう、ここは取れる！という科目を一つでも作っておきましょう。できなかったことが頭をよぎると思いますが、試験は選択式です。最後は自分の直感を信じて、自信を持って試験に挑みましょう！

当日の問題との相性の良し悪しも少なからずあり、焦ることもあると思いますが、自分を信じてどんと構えていれば大丈夫です！今を楽しむくらいの気持ちで頑張ってください！

試験は大変だと思いますが、得意分野で得点を稼ぎ苦手分野は最低限できるようにしておくなど、戦略的に勉強してみてください。また、教養区分は問題集を解くだけよりも、各教科の資料集などを読むこともする方が意外と助けてもらえるかもしれません。

長時間で疲れると思いますが、もし前の時間の試験で手応えが悪くても、最後まで諦めずに力を出し切れることを祈っています！

非常に長丁場な採用活動ですが、最後まで希望を捨てずに頑張ってください！！

公務員試験合格が最終目標ではないはずなので、試験対策と同時に、国家公務員としての仕事や哲学の理解や、自分が作りたい理想の社会に対する考えを深める時間も大切にすると良いと思います。

普段の授業やアルバイト、インターン、就職活動、卒論など、それぞれ忙しい日々をお過ごしと思いますが、学生生活も楽しみながら、自分のペースで頑張ってください。応援しています！

4. 官庁訪問

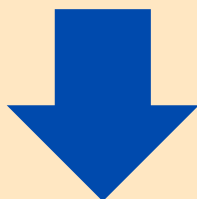


宮城県 松島, 2024年12月

官庁訪問の面接の種類

・ 入口面接

一日の初めに行われる面接です。訪問者カードに沿った簡単な質問や、興味のある政策分野について聞かれます。ここで伝えた興味関心をもとに原課面接を組んでくださることもあります。

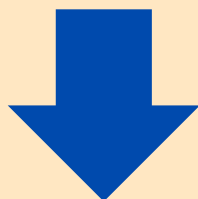


・ 原課面接

実際に原課で働かれている職員の方のもとに行き、お話を伺います。基本的には職員の方の現在の業務内容やこれまでのキャリアについて説明を受けた後、質問やディスカッションを行います。職員の方と一対一で話し、業務理解を深めるとともに、職場の雰囲気やどのような思いを持って働かれているかを知る貴重な機会となります。

・ 秘書課面接

いわゆる人事面接です。採用担当の方と行います。志望動機やこれまでの経験、パーソナリティなどが深く質問されます。また、それまでの原課面接で学んだことも聞かれます。準備してきたことと合わせて、官庁訪問を通じて得たことを発揮する場になります。



・ 出口面接

一日の最後に行われる面接です。一日を通した感想などが聞かれ、フィードバックをいただき、その日は終了となります。

一日のスケジュール例

時間	面接の種類	お話を聞く職員
8:20	集合	
8:45~9:00	入口面接	
9:30~10:30	原課面接	環境経済課
11:00~11:30	秘書課面接	
11:45~12:30	お昼休憩	
13:15~14:30	原課面接	自然環境局
15:30~16:00	秘書課面接	
17:00~18:00	原課面接	大臣官房 総務課
18:50~19:00	出口面接	



時間や面接の種類、回数、順番は人によって様々です。

官庁訪問対策

採用イベント・職員訪問への参加

- ・説明会への参加
- ・説明会の内容、資料の復習
- ・採用説明会に参加し、白書等を読むだけでは分からない政策立案プロセスや政策への捉え方を学ぶ
- ・採用説明会に参加し、現職の方が持つ仕事の哲学を学ぶ
- ・他省庁を含め、説明会の資料を全て印刷して持参
- ・他省庁の説明会にも積極的に参加し、環境省の仕事への解像度を上げた
- ・職員訪問の機会をいただき、環境省の各政策分野の課題や今後の展望について伺う
- ・職員訪問をさせていただき、実際の職員さんの雰囲気を知る

政策分野に触れる

- ・新聞を読む
- ・環境政策関連のキーワードをざっくり押さえる
- ・詳しくなる必要はないが、気になる政策を2、3個理由とともに整理しておく

志望動機・自己分析

- ・志望動機の深掘り
- ・入省後にやりたいことについて具体化（興味のある分野で具体的にどんな施策を実現したいか）
- ・他の就職先（環境省以外）との比較/深掘り
- ・理想とする社会を考える→その実現に向けて必要な政策を考える
- ・人生年表を作る
- ・人生経験の整理(原体験など)
- ・ガクチカなどの深掘り



面接対策

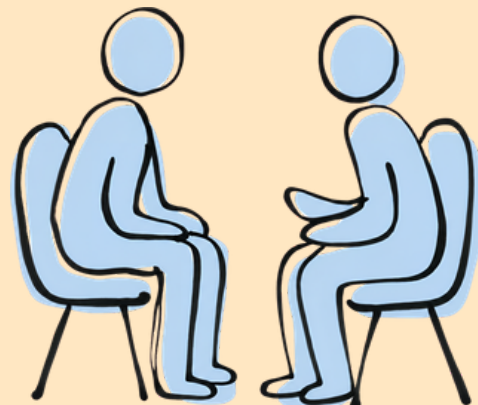
- ・ 民間就活の面接（特に意識はしていませんでしたが、結果として慣れの部分で、官庁訪問本番に大きく役立ったと思います）
- ・ 面接練習
- ・ 疑問点や聞いてみたいことの書き出し
- ・ 予備校で面接練習を大量にこなす
- ・ 訪問者カードの内容を、自分の言葉で説明できるように練習した
- ・ 想定質問集を準備した
- ・ 友人と面接練習

周囲の力を借りる

- ・ 調書を志望者と相互評価
- ・ 父に面接カードの添削を依頼していました
- ・ 官庁訪問経験者の友人に話を聞いた
- ・ 大学のキャリアセンターに相談に行った
- ・ 公務員を志望する友人で集まり、面接対策や政策討議を実施
- ・ 官公庁に詳しい友人、そうでもない友人、家族、先生など、違う属性の人たちに願書を説明できるようにした

その他

- ・ 「内定者の声」を数年分読む
- ・ ChatGPTと徹底討論
- ・ 体力勝負になると思ったので、ランニングを気分転換がてらやっていた
- ・ ランニング(官庁訪問は体力勝負でもあるので、体力づくり)
- ・ 早く寝る、生活習慣を整える



役に立った持ち物

～面接準備～

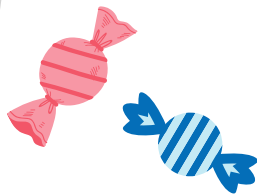
- ☐ 説明会の資料、メモ
- ☐ 官庁訪問用のノート
- ☐ 白紙
- ☐ メモ帳
- ☐ クリアファイル
- ☐ 名刺入れ
- ☐ パソコン、iPad
- ☐ 訪問者カードのコピー

面接で伺った話をメモするだけでなく、自分の考えを振り返ったりまとめたりするのにノートやPCを使ったとの声が多かったです！

名刺入れは、面接官からいただいた名刺の管理に役立ちました。



簡単に片手で食べられるお菓子など、手早く糖分補給できるものが重宝します。

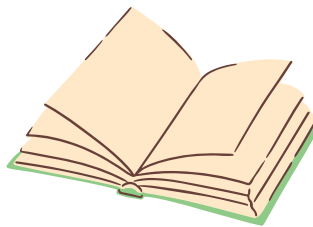


～食べ物など～

- ☐ 昼食
- ☐ お菓子
- ☐ ゼリー飲料や果物など
- ☐ 大きめのお茶・水
- ☐ ガム
- ☐ のど飴・トローチ

～その他～

- ☐ 本
- ☐ 折り畳み傘
- ☐ 頭痛薬



官庁訪問は長丁場になります。体調管理も入念に！

印象に残った質問

志望動機・興味関心について

- ・（他ではなく）なぜ国家公務員を志望するのか
- ・なぜ環境省を志望するのか
- ・他省庁を含めた就活の軸や理由
- ・〇〇省と環境省を志望しているが、どうしてこの二つを志望しているのか
- ・最近には特に公務員に対する否定的な意見がネットでも多いけど、それでも志望する理由はなにか
- ・専攻は環境分野ではないけど、なぜ志望したのか
- ・環境を自分ごととして考えたきっかけはあるか
- ・（環境問題に興味を持ったきっかけについて、）同じ経験をした人皆が環境問題に関心を持つわけではないと思うが、自分がそれをきっかけに関心を持ったのはなぜか
- ・環境問題を気にしない人もいるのに、自分が気にするのはなぜだと思うか
- ・特にどの分野に興味があるか
- ・環境以外で興味のある分野

ガクチカ・パーソナリティについて

- ・サークルでの経験を、環境省での仕事にどう活かせるか
- ・決断を下す時にストレスを感じるか。ストレスを軽減するために意識的に取り組んでいることは何か
- ・周りからどういう人だと思われるか
- ・辛い思いをした経験はあるか、それをどのように乗り越えたか

将来の理想像・ビジョンについて

- ・学生時代の経験が志望動機の一つとなっているようだが、その経験をどのように政策立案に活かそうと考えているのか
- ・理想の社会像は？、それを実現するために何をすべきか
- ・（抽象的で構わないから）自分が理想とする社会像について説明してください
- ・将来のキャリアプランはあるか
- ・なりたい職員像

大学での専攻について

- ・大学での専攻について（なぜそれを研究しているのか、どう興味関心と繋がっているか）
- ・卒業論文のテーマと、その選定理由
- ・卒業研究の仮説と研究方法について

政策課題について

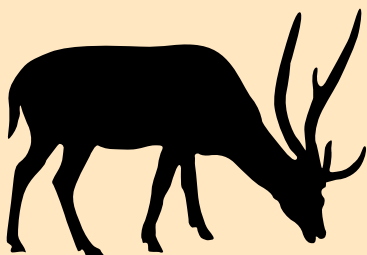
- ・各施策の課題に対してどうすればいいと思うか（里山保全、福島復興等）
- ・福島の復興再生に興味があるようだが、地域の分断を生まずに再生土壌の利用を促進するためには、どのような政策が効果的であると思うか
- ・今後日本は国際的な場でどのように振る舞っていくべきか

官庁訪問を通して

- ・印象に残った原課面接/職員は？官庁訪問を通して考え方に変化はあったか
- ・原課面接で何を学んだか
- ・(第2クールで)第1クールに回った他の官庁ではどのような話を聞いて考えはどのように変わったか

その他

- ・この仕事をやるにあたって必要な力とは何か
- ・地域とは何か(自分なりの定義)
- ・現職の経験で活かせそうなこと
- ・民間就活をしようと思ったのはなぜか
- ・併願して受けた民間企業はどのような軸で選んだか



訪問者カードに沿った質問を中心に、特にこれまでの経験や人となりを聞かれたことが多かったようです。

官庁訪問の振り返り



本多静六

正直なところ、官庁訪問を実際に行っている時点において、あまり上手く行ったなと思えた瞬間はありませんでした。常に原課や人事面談のスケジュールと内容を考察して、疑心暗鬼になりながら最悪の想定を繰り返していたように思います。官庁訪問をするにあたってお勧めできる姿勢ではありません。周りの友人にも考えすぎず、多くの職員の方のお話を一度に聞けるお得な5日間くらいの感覚で行ったほうが良いと助言はもらっていましたが、実際に当日になるとそんなありがたい言葉も頭から抜け落ちていたように思います。そんな緊張しやすい私が当時自分に言い聞かせていて、振り返ってみると上手く行っていたのかもしれない、と思うのは、常に会う全ての人に自分が今日、こういう思考回路を経て、なぜこの場に立っているのかと、いうことを拙い言葉であっても自分の言葉で説明するようにしていたことです。私の場合は国際系の学部を卒業し、院進もした上で一度民間就職もしていたので、その時々でなにを考え、どうしてその人生選択をしたのかを赤裸々に説明させていただいていました。もちろん政策面の知識や原課訪問時にどれだけ職員の方の話を吸収できるかも大切なのだと思うのですが、知識面の過不足や青臭さがあったとしても自分の頭で考え、思いを伝え、質問に対して自分分の経験から現時点で持ちうる答えをお伝えし、素直に現時点でわからないことはこれから見つけていきたいと伝え、それが職員の方にも共感していただけたからこそ、今の結果があるのかなと思います。

官庁訪問を通して、緊張から逆質問が出てこない、人事の方からの質問に固まり、答えられず頭が真っ白になり逆に助け舟を出してもらいながら答えを捻り出すなど、様々な失敗は繰り返していました。ただこれは緊張からくるものなのでもう一度官庁訪問をしたところで繰り返してしまうと思います。ただ、そんな官庁訪問の中でもこれは変えられたのではないかと思うのは待機室での他の志願者との向き合い方です。当時は自分の志望動機や素性を評価されるのを恐れて必要最低限しか共有していなかったように思います。ですが、面談や面接の直後にアウトプットできる良い機会ですし、将来の同期になる可能性もある方々です。で過剰に意識せずに肩の力をもっと抜いて話しても良かったと感じています。

官庁訪問を通して緊張はしていましたが、とにかく現状の自分を見せるしかないと思腹は括っていたように思います。最終的に官庁訪問は最上級のマッチングの場です。緊張や失敗、準備不足など色々な側面はあるかもしれませんが、それも含めて今の自分がその省庁にあつてるかどうかを5日間を通して判断してもらいます。今の自分を相手がどうみるかはコントロールできないものなのである程度開き直って挑めれば良いと思います。当日の気分、数多くある面談一つ一つとっても浮き沈みのある官庁訪問かと思えますが、それだけ先方も本気で志願者と向き合っている機会だと思えます。後悔のないように全力でそれに答えてやるくらいの意気込みで頑張ってくださいばいいと思います。応援しています！



竹下登

官庁訪問では、等身大の自分を出すことを意識していました。それにより、質問に対して素直に自分の意見を述べることができました。環境省の官庁訪問では、自分がどのように考えているかという部分を聞かれることが多かったです。その際には自分の知っている範囲で考えながら答えました。また、伺ったお話を自分の中に落とし込んで言語化できるようにすることも意識していました。官庁訪問では色々な方々のお話を伺うことができますが、それぞれの話を踏まえて、自分の考えがどのように変わったのかを整理していました。そうすることで、官庁訪問期間中の自分の成長を表すことができたと思います。

一方で、うまくいったことばかりではなく、1日目に回った省庁と2日目に回った省庁とでも迷い、色々な方に相談に乗っていただきました。そのような環境省の雰囲気や人柄の良さにも魅力を感じ、決断しました。

官庁訪問当日の面接の間の時間には、訪問者と話をしたりリラックスしたり、面接の振り返りをしたりして過ごしました。第一クールと第二クールの間では、第一クールの振り返りをした上で、家でゆっくりしていました。長丁場になるので、疲れを溜めないよう、睡眠だけはしっかりとるようにすると思います！



広島県尾道市, 2026年8月

私は、説明会に参加し始めたのは遅かったですが、官庁訪問を通じて環境省への理解を深め、良さも知り、志望度が高まりました。特に、楽しんで過ごすことができました。環境省の官庁訪問はとても楽しいので、リラックスして臨んでください！



茶々

こんにちは。これを読まれている方は「官庁訪問不安だな」と感じている方も多いのではないのでしょうか。私の振り返りを通して、皆様の不安が少しでも軽くなればと思います。

①官庁訪問で上手く行ったと思うこと

まず、上手く行ったと思うことは志望動機や「学生時代に力を入れたこと」は詰まることなく話せたことです。民間就活を経験していたこともあり、何度も経験してきた質問には、官庁訪問本番でもしっかりと話せたように思います。官庁訪問は言ってしまうえば面接の繰り返しです。定番の質問にはしっかりと自分の言葉で答えられるように、民間併願をしない方でも、大学のキャリアオフィスなどで面接練習を行っておくことをお勧めします。

②上手く行かなかったと思うこと

反対に、端的な受け答えを意識しすぎてしまったことは反省点です。第3クルールの最後、人事の方に、「もっと熱意が見えても良かった」とフィードバックを頂きました。私自身、簡潔に答えることを意識しすぎてしまい淡白な受け答えになってしまっていたので、より具体的に自分の考えを述べたり、熱く語ったりする余地はあったと感じています。

③官庁訪問で意識したこと

官庁訪問で最も意識したことは、「わからないことは素直に聞き、その場でしっかりと考え、食らいついていく姿勢」です。特に原課では、政策についてお話を伺いながら、疑問点や自分なりの意見を考え、伝えることが大事だと今振り返っても思います。興味のある分野については大まかにでも自分なりの考えをまとめておき、詳しくない分野については素直に疑問点を聞いてみることを意識していました。

また、体調を整えることも大事にしました。睡眠と食事をしっかりと取ったことで、緊張状態が続く長丁場も乗り切れたと思います。

④メッセージ

私も官庁訪問期間中は緊張と反省でいっぱいでしたが、今思い返すと「楽しかった」という感想が一番です。説明会や官庁訪問で、今まで知らなかったことや疑問に感じていたことを知り、同じ志を持つ方々と出会えたことは、例えば官庁訪問が上手く行っていなかったとしても、とても貴重で良い経験だったと思っています。ぜひ、「官庁訪問楽しむぞ」というくらいの気概で臨んでみてください。

この振り返りが、これから官庁訪問に臨まれる方の心が軽くなり、悩んでいる方の参考になれば幸いです。



官庁訪問に臨む皆様へ

「入省後ミスマッチに苦しむなら今落ちた方がマシ！」という気持ちで面接に臨んでいました

官庁訪問は志望者と官庁がお互いを知り合うイベントです。変にあれこれと考えずに、ありのままの自分でいきましょう！

ひょっとしたら内定者の言葉は何も意味をなさないのかもしれませんが、とにかく応援しております。

自分がこの省で何をやりたいのか、しっかり言えることがとても大事だと思います。熱意を持ち、伝え、その上でありのままの自分を見せられると良いと思います。頑張ってください！

官庁訪問もれっきとした選考プロセスです。不安が尽きないとは思いますが、当たって砕ける精神でやるといいこともあるかも

緊張すると思いますが、なるべく自然体で、自分の思いを素直に伝えるのが良いと思います。体調に気をつけて頑張ってください！

官庁訪問では、「(環境省職員の方が)一緒に働いている想像がつくか」という観点が重要視される観点の1つであるように感じました。環境行政に対する姿勢や関わり方を自分なりに考え、官庁訪問で確かめることが大切でしょう。

緊張して大変かと思いますが、とにかく好奇心を忘れずに、たくさんの職員の方のお話を聞ける貴重な機会、くらいに考えて楽しみながら臨めれば、少し気持ちも楽になると思います。

素直に答えて等身大の自分を表現することが大事だと思います。頑張ってください！

この分野だったらこんなことを聞いてみようかな、自分のこういう面を伝えたいな、など、事前にふわっとでも考えておくと、落ち着いて原課面接や秘書課面接に挑めるかなと思います。

かんきょうだより

vol.2

生まれ変わったら
何になりたい？



野生のイルカ



トンビ



カピバラ



ネコ



カモメ

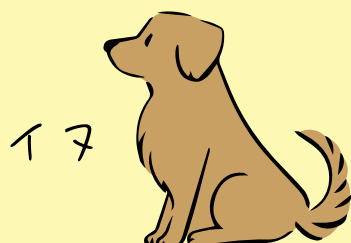


ふくろう



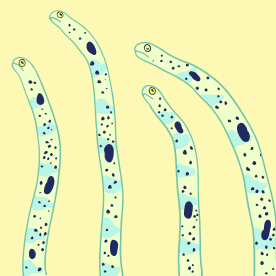
ワシミミズク

ショートスリーパー



イヌ

チンアナゴ



5. 座談会



大阪府 安威川, 2019年6月

これまでの経歴

小津…既卒者の就活ということで集まりましたが、皆さん官庁訪問の前は何をしていたのですか？

北条…地方公務員として都道府県庁で働いていました。

本多…不動産デベロッパーで再開発の仕事に取り組んでいました。

小津…なるほど。私は法科大学院修了後、司法試験の勉強をしていました。

北条…それぞれ公務員・民間・学業とバラバラなことをしていたんですね。そのような中で、なぜ官庁訪問をしようと思ったのでしょうか？

本多…学生時代から、就職の軸として「次の世代に何を残せるか」ということを考えていました。だからこそ、デベロッパーで将来の街や人々の暮らしを考える仕事に魅力を感じていました。ただ、企業活動には社会を前に進める推進力がある一方、需要や経済合理性が見えにくい長期的な課題には取り組みにくいこともあります。何十年先の社会を見据えて政策を考えられるのは国家公務員ならではの仕事ではないかと考え、官庁訪問を決意しました。



北条政子

25卒。
いざ公転職。



本多静六

25卒。
背水の陣！



小津安二郎

25卒。
社会人0年目。

対談メンバー

官庁訪問の準備

小津…お二人は働きながら転職活動をしていたとのことですが、どのように準備をしていましたか？

北条…前職も公務員だったので、学生時代に公務員就活の知識を蓄えていました。平日は仕事があるので、通勤中の電車や休日有効活用し、準備を進めました。具体的には、人生年表を作ったり想定問答に対する自分の考えを整理したりです。また、前職で学んだことや考えたことを日々書き留め、自分の思考や意見の深掘りもしました。

就活の進め方 ～既卒編～

本多…通勤中に志望理由を整理していました。仕事が終わった後は、学生時代の同期や会社の同期に自分の考えを話しながら整理してましたね。特に会社の同期には、「なぜ今の会社を辞めようとしているのか」を納得感を持って説明できるように意識していました。それが面接でも必ず聞かれると思っていたので、自分の話を聞いた同期が納得してくれなかったかどうかを一つの目安にしてみました。あとは、説明会にもできるだけ参加していました。オンラインで流し聞きすることもありましたし、都合がつく時は対面の説明会にも足を運ぶようにしていました。

小津…大変ですね。官庁訪問当日も含め、労力のかかる就職活動プロセスなので、周りの協力も必要だったかと思いますが。前職で、官庁訪問をすることは周りに伝えていたんですか？

北条…私は内々定が確定するまで誰にも話せなかったです。前後の日で極力仕事を片付け、有休を取得し、官庁訪問をしていました。

本多…私は官庁訪問の時には、すでに退職の意思を伝えていて、有休消化中でした。あと、元々隠し事をするのがあまり得意な性格ではなく、日中は通常の仕事をしながら、その裏で転職活動を進めるという二重生活をどうすれば無理なく続けられるかを考えていました。だからこそ、辞める前から同期や直属の上司には相談もしていて、ある程度オープンにしながら就職活動を進めていましたね。

北条…小津さんは、どのような対策をしていましたか？

小津…自分は時間に余裕があったので、説明会や対面での政策シミュレーションには積極的に参加していました。採用担当との相談会や職員訪問などで、職員の方と直接お話しする機会もありました。

北条…職員訪問は有難い制度ですよ。私は同じバックグラウンド（都道府県庁からの転職経験）を持つ職員の方を紹介していただきました。ざっくりばらんに不安や悩みを相談できるのでオススメです。

本多…人と会うのは大事ですね。私も採用担当との相談会にそこまで環境省への事前知識がないまま参加させていたたい、環境省を目指すきっかけになりました。

既卒の有利・不利

小津…皆さんは既卒だから有利・不利だと感じたことはありますか？

北条…有利だと感じたことは、一度就職活動を経験していたため、面接でもあまり緊張せずに済んだことです。また、社会人生活を経たからこそ、志望動機や環境省の仕事内容について解像度高く話すことができたなと感じます。

本多…諸刃の剣だなとは感じていました。他の訪問者と比べると、社会人経験がある分、話せるエピソードや仕事への解像度という点は強みにできるかと思っています。

一方で、面接では「なぜ学生時代に官庁就活をしなかったのか」「今は何をしたい、なぜ前職を辞めるのか」といったことも当然聞かれま
す。消極的な転職活動の一環と受け取られてしまったら厳しいとも感じ
ていました。だからこそ、自分がな
ぜ既卒で官庁訪問をしているのか、
なぜ今このタイミングで挑戦しよう
と思ったのかを、自分の言葉でしっ
かり説明できるように意識していま
した。

小津…自分は社会人経験がないの
で、話せることは現役の学生とあま
り変わらないと思うのですが、進路
を変えた理由や経緯についてはしっ
かりと説明できるように準備しまし
た。あとは学生時代にゼミやサーク
ルなどで取り組んだ内容を整理して
思い出していました。

北条…そうですね、私もこれまでの
人生経験は細かく書き出して振り返
りました。これは既卒・現役問わず
重要だと思っています。

北条…人生経験に関連して、ガクチ
力（学生時代に力を入れたこと）を
問われた際は皆さんのような話を
しましたか？

本多…私は院在籍時は自治会活動に
取り組んでいたのですが、その経験と、
民間時代の都市開発の仕事の経験に
ついて話していました。どちらも一
人で完結する仕事ではなく、様々な
関係者を巻き込みながら成果につな
げた経験だったので、傾聴力や調整
力といった強みをアピールしていま
した。学生時代と社会人時代の経験
を一貫性を持って説明できるよう意
識していましたね。

小津…私は学部時代のサークル活動
について話しました。自分は宇宙系
の学生団体に所属していて、宇宙法
の模擬裁判大会に出たり、イベント
を開催したりしていました。もとも
と文理融合というか、文系の立場か
ら自然科学分野に関わりたという
思いがあったので、アピールはしや
すかったですし、話す内容にも困ら
なかったです。

北条…私は大学のバレーボールサー
クルで会計事務職を務めた経験を基
に、リーダーシップや責任感の強さ
をアピールしました。既卒だと学生
時代の記憶が曖昧になってしまい、
詳細を思い出すのにも一苦労です
ね。

本多…他に、既卒だからこそ悩んだ
こと等がありましたか？

北条…平日は仕事に追われ、休日
も官庁訪問のことを考えていたため、
心から休息できない感覚が辛かった
です。切り替えて遊ぶことも大事で
すね。

本多…正直言って数日間丸々使わ
ないといけない官庁訪問と就労中の転
職活動は非常に相性が悪いです
ね。それこそ自分は退職して挑むこ
とになりました。それに加えて、院
卒でもあるのでこの歳で仕事を辞め
て再度新卒として挑戦する怖さもあ
りました。

小津…自分も院卒なので、そろそろ
進路を決めないといけないという焦
りや両親への申し訳なさもありま
した。ただ、時間的な余裕があってマ
イペースに準備できましたし、何と
かなるだろうと割り切っていました
た。

本多…不安もあった中で、改めて官
庁訪問に挑もうと思ったのは何故で
すか？

北条…今後のキャリアを考えた時
に、早めに転職して様々な部署の経
験を積んでおきたいと思いました。
また、当時は新卒から時間が経過す
る程、不利になるのではないかと、
不安に感じていたということもあり
ます（実際に官庁訪問を経験する
と、一概に年齢で不利にはなるわけ
ではないと感じました）。

本多…官庁だけでなく、民間で働
いてる方も含めてキャリアについて
多くの方にご相談させていただく中
で、二十代のうちは考えすぎず少
しでも興味がある方向にチャレンジ
した方がいい」との言葉を多くかけ
ていただき、思い切って背水の陣で
退職届を出した次第です。

小津…最初は司法試験を受け直そう
とも考えましたが、法律の専門家と
して働く自分をイメージできずに悩
んでいました。そんな中で省庁の説
明会に参加して、自分の興味の方向
性や雰囲気など、公務員の方がしっ
くりくるなと感じました。学生時代
にもっと色々な選択肢を見ておくべ
きだったかなと少し後悔していま
す。

小津…お二人は経験者採用は考えな
かったのですか？

本多…社会人生活を通じて同期の大
切さを実感していたので、新卒で入
省し、同期と一緒に成長していきたい
と考えていました。

北条…私は前述の通り、今後のキャ
リアを考えた時に早めに転職したか
ったので、通常の総合職試験枠で受
験しました。また、学生時代に落ち

た試験にリベンジを果たしたうえで
入省したいという謎の拘りもありま
した（笑）

本多…説明会や官庁訪問の時、アウ
エー感とか感じませんでしたか？

私は正直、同じ席になって自己紹介
とかする時に、実は既卒と告白する
の緊張したりしてました。でも意外
と既卒の人だったり、色んな事情で
同い年だったり年上の人なんかもち
ラホラいて、あんなに緊張しなくて
よかったなっていました。

小津…最初に説明会に参加始めた
頃は少し気にしていました。グルー
プワークの自己紹介などで、みんな
は弟や妹くらいの年齢だなと思うこ
ともありました。官庁訪問の頃には
気にしなくなっていました（笑）

北条…私も他の訪問者との交流は少
し緊張しましたが、思っていたより
も訪問者の属性が多様で安心しまし
た。面接においても、不利益を感じ
ることはなく、むしろ、採用担当の
方から「日時調整は柔軟に対応する
ので安心してほしい」と配慮いた
き有難かったです。

おわりに

北条…既卒での官庁訪問に
不安を感じている方も多
いと思います。迷っている方
がいたら、どんな言葉をか
けますか？

本多…私自身も迷いま
したが、民間での経験があっ
たからこそ、以前とは違う視
点で官庁を見ることができ
ました。少しでも挑戦した
い気持ちがあるなら、一度
挑戦してみるのもありだ
と思います！

小津…キャリアの選択に多
少時間がかかってても、最終
的に自分の納得のいく進路
を選ぶと良いと思います。
公務員に関しては、既卒だ
からといって不利になるこ
とはないと思うので、あま
り気にせずに、これまでの
自分の経験や考えなどを伝
えられるといいと思いま
す！

北条…官庁訪問では今の自
分を見ていただけと感じて
います。お二人が話して
いたように、既卒であるこ
とや過去の失敗を理由に臆
する必要はなく、そこから
何を考え、どう成長したか
をしっかりとアピールでき
ればきっと大丈夫です。どん
な仕事も大変な場面はある
と思いますが、「やらない
後悔よりやる後悔」だなと
思います！



情報収集

小野… 地方学生の国家公務員就活で、まず難しいのは情報収集ですかね。私たちは2人とも関西ですが。

松尾… 地方の大学だと、国家総合職を目指す人が周りに少ないこともありますよね。自分の周りでは、同じ大学の法学部の中に志望している人が二、三人くらいでした。一度、別の省庁を志望している人と話したことはありました。それくらいです。妹子さんはどうでした？

小野… 私は周りに国家総合職を受験した友達や先輩がちょこちょこいました。環境省を受けた人は知り合いいなくて、情報はあまり入ってこなかったです。なので、ネットで調べたり、オンライン説明会に参加したり、「内定者の声」を読んだりしながら情報収集しました。芭蕉さんは予備校に通っていましたか？

松尾… 通っていましたが、周りは地方公務員志望者が多くて、国家総合職志望者との横のつながりはあまりなかったです。

小野… 私も、もう少し横のつながりを作っておけばよかったなというのは反省点です。

採用イベントへの参加

松尾… 地方だからこそ、東京でのイベントに顔を出したり、関西でのイベントに参加したりすると、熱意は伝わりやすいし、顔も覚えてもらいやすいというメリットはあると思います。

小野… 確かに、地方で開催されるイベントだと、より少人数で職員の方とお話できることもあるかもしれませんね。

松尾… あと、情報が少ない分、変な憶測や噂に触れる機会が少ないというのも、逆にいいところかもしれません。根も葉もない噂に惑わされることもないので。(笑)

小野… 確かに。あと、せっかく東京まで来たんだから、最後のクールまで頑張ろう、という自分自身のモチベーションにもなったかもしれません。(笑)。

官庁訪問のお金事情

松尾… 官庁訪問にかかる費用の確保はどうしました？

小野… 貯金を切り崩しました(笑)。民間就活もしていたので、就活中はアルバイトをする時間も少なかったのですが、学部時代にたくさん働いていた分が一応あった

ので…。芭蕉さんはどうしました？

松尾… 民間就活もしながらアルバイトとの両立も大変だったもので、親に頭を下げました。でも、いずれ返そうとは思っています。

小野… おく。私は新幹線(京都までの3往復)とホテル(1泊)、食費(ほぼコンビニか食堂)で、トータル16万円くらいですかね。週末は関西の実家に帰っていたので、芭蕉さんより宿泊数は少ないですが、ホテル代はトータルで7万円ちょっとでした。

官庁訪問の宿事情

小野… ちなみに、ホテルはいつ頃予約しました？

松尾… 3月頃に、官庁訪問期間中ずっと連泊できる場所を予約しました。

小野… 私は5月の初め頃に、直前までキャンセルできるところを予約しました。ちゃんと最後のクールまで残れるか心配だったのと、費用を安く抑えたかったのも、1クールごとに分けて、それぞれの期間で比較的安いホテルを探しました。ただ、クールごとにホテルを移動するのは正直面倒でした(笑)。

小野… 宿泊場所に関しては、東京にいる友達や親戚に泊めてもらうという手もありますよね。

松尾… 僕も上京した友達はいましたが、霞ヶ関の近くではなかったのが、朝9時集合などの場合に早起きして移動するのがしんどいなと思って、ホテルを取りました。

松尾… 小野さんはどのあたりのホテルに泊まりました？

小野… 虎ノ門、国会議事堂前、赤坂など、霞ヶ関にできるだけ近いところに取りました。

松尾… 最悪、歩いて行けるくらいの距離がいいですね。

小野… 東京の電車にもあまり乗り慣れていなかったし、ダイヤが乱れたときなどにうまく対応できるか不安だったので、歩いて20〜30分くらいのところを選びました。

松尾… 僕は半蔵門に泊まっていた。電車が止まっても20〜25分くらいで歩ける場所です。電車なら乗り換えは必要ですが、10〜15分くらいで行けるので、半蔵門は個人的に結構おすすめです！

松尾… あと、そのホテルは以前インターンで東京に来たときなどに何度か利用したことがあるところでした。環境省に限らず、官庁訪問の前に東京に来る機会があれば、一度泊まってみると、当日も慣れていて動きやすいんじゃないかなと思います。

小野… それはいいですね。私は霞ヶ関に行くこと自体が初めてで、道に迷うこともありました(笑)。



松尾芭蕉

大阪府在住
初めての一人暮らし



小野妹子

滋賀県在住
初めての都会暮らしがちょっと心配

対談メンバー

就活の進め方 ～地方学生編～



官庁訪問中の過ごし方

松尾… 妹子さんは週末に関西へ帰っていましたが、往復にも時間がかかるし、疲れが取れなかったりはしなかったですか？

小野… もともと週末に予定があったので帰ったのですが、実家でゆっくりする時間も取れて、いいリフレッシュになったかなと思います。省庁は2つしか回っていないくて、3日目は空いていたので帰れたというのがありますね。

松尾… 僕の場合は土日ずっと東京にいたので、正直暇でした（笑）。バイトをすることもできないし、土日までたどり着けるかも分からなかったもので、友達と会う約束もしにくくて。ホテルで寝たり、皇居の周りを散歩したりしていました。帰らない分、贅沢に時間を使えたという実感はありますね。

小野… 食事はどうしていましたか？

松尾… 僕は少し贅沢に、朝食付きのホテルを取りました。朝はバイキングで野菜などをしっかり食べて、気合いを入れて面接に行く、みたいな。朝においしいものを食べることがモチベーションにもなりました。

小野… 私は平日はほとんどコンビニになんてしていましたが、朝食付きのホテルはとってもいいですね。

松尾… 週末は中華料理屋さんに行ったりしていました。ホテルの近くに中華料理屋が軒あつたので、交互に行って、常連みたいになっていました（笑）。

地方学生ならではのメリット

松尾… 地方でも、他の省庁を含めて対面イベントを開催していますよね。東京との情報格差があるという実感はあったので、省庁が地方でイベントを開催してくださる機会があれば、できるだけ対面で

参加するようにしていました。採用イベントで知り合った職員の方が、たまたま自分の近所に住んでいて、そのご縁でお話を聞くこともできましたし、そこからさらに、地方に向向している方につないでいただいたこともありました！

小野… 官庁訪問の前から、職員の方に直接お話を伺う機会を作っていたんですね！

松尾… 意識的に作っていったというよりは、職員の方がご縁をつないでくださったという感じです。それによって省庁研究もできました。環境省も、採用担当の方が大阪に来られる機会などには、顔を出すようにしていましたね。

小野… いいですね！一度お会いしたことのある方だと、官庁訪問の際にも少し緊張が和らぐかもしれないですね。

松尾… 実際、一度大阪でお会いした方と官庁訪問でお話したときは、面接というよりも面談に近い雰囲気でした。

小野… 私はオンラインのイベントばかりにしてしまったので、せっかくなら対面で会える機会をもっと活用しておけばよかったなと思います。

地方就活生の皆さんへ

小野… 地方でもいろいろな省庁がイベントを開催しているので、そうした機会をもっと積極的に活用するというのは、自分の反省点でもあり、これから就活する方へのアドバイスでもあります。私の場合は関西だったので、比較的近くでイベントが開催されていましたが、そうでない地域でもオンラインで参加できるイベントはたくさんあります。あと、ホテルを取るなら早めがおすすです！

松尾… 官庁訪問は体力的にも精神的にも疲れるので、東京でリフレッシュできる方法を考えておくことも大切だと思います。自分の場合、友達と遊ぶ約束はしていなかったのですが、休日に官庁訪問とは関係のない友達と会うなど、一度頭を切り替えてリフレッシュできる時間を作っておけばよかったかもしれません。

小野… 地方からの就活は、移動や宿泊など大変なこともあります。無理をしすぎず、自分なりのペースで頑張ってほしいですね！

滋賀県
2026年 8月撮影
紫香楽宮中心地跡



他省庁の考えを尊重しつつも、環境省の政策を前に進めるために、自分の立ち位置を明確にすることが大切だ、というように話を話した記憶があります。

小野…私の場合は、ガクチ力をどう活かすかの深掘りはそんなに多くなかったですが、随所で活動内容自体については聞いていただきました。農業サークルでの活動で培った、現場に足を運び自分の目で確かめながら考える姿勢は働く上でも大切にしたいなと思って書きました。

小津…具体的なエピソードは何でも良いけれど、それが環境省の仕事にどうつながるかは少し意識したほうが良いかもしれませんね。

小野…無理に合わせなくても良いと思いますが、何かしら関連付けて考えるのは良いかもしれないですね。

蒲生…自分が環境省でやりたいことや、仕事の進め方、物事の捉え方を話す上での材料みたいにつめるのが良いのかなという気がします。

小津…私はサークルのことを書きましたが、宇宙開発の話で環境とはあまり関係なかったです。ただ、分野として珍しいので色々質問してもらえました。理系メンバーが多かったので異なるバックグラウンドの人たちと一緒に活動してきた、という点が伝わるよう意識しました。

渋谷…私の場合は、サークルでの組織運営について書いたのですが、活動の事実確認を深掘りされるというよりは、そこから一段抽象化して「困難にどういう**ス****タンス**で向き合うのか」「チームをまとめる上で何を大切にしているか」といった、私自身の哲学に近い部分を問われた印象です。

蒲生…渋谷さんの場合はエピソードのお話がすごく分かりやすかったのだと思います、私は話が複雑で度々突っ込まれてたので（笑）。ただエピソードが分かりやすいと、さらにその先でどういう考えを持っているかが聞かれやすいというのは、確かにありそうです。

小津…無理に自分を作っていく必要はないので、素直にそのまま書けばいいと思います。

蒲生…そうですね、そこから**どういう人間なのか**が見えてくると良いのだと思います。



大切にしている考え方は？ （座右の銘等）

渋谷…今年度からの新しい項目ですよ。先ほどの「どういう人間なのか」が伝わるのが一番」という話にも直結しますが、やはり環境省は「その人が根底でどういう考えを持っているか」を重視しているということなのでしょう。皆さんは、この項目を書く上でどのようなことを意識しましたか？

小野…自分を大きく見せすぎたりせずに、自分がどういうことを大切にしているか、どんな人になりたいか、等身大で書くことを意識しました。

蒲生…私も、下手に飾ろうとせずに、素のままの自分を見せることを意識しました。上手くいかなかった失敗の部分も赤裸々に書く。そうすることで、自分という人間を理解してもらいやすくなると思います。

小野…「**素のままの自分**」でいくことは官庁訪問全体に共通するかもしれないですね。

渋谷…実際の面接の場でも、「**素の自分**」を出したことで面接官としっかり対話ができ、それがプラスに評価されたという実感はありましたか？

蒲生…私は結構それを感じました。これも個人的な話ですが、第一クールが終わった時に採用担当の方とお話する機会があり、そこで「もっと素の蒲生さんを知りたい」「あまり緊張らずにお話しただけだと嬉しい」というお言葉をいただくことがありました。自分なりに考え、第二クールはあえて意識的に本音を伝えてみたところ、後日その採用担当の方に「素を出してくれて感謝している」とおっしゃっていただきました。

この経験から、面接官の方々は我々就活生の等身大の姿を知ろうとしているんだなあ…ということを感じました。

小野…環境省は自分の話したいことを話させてくれる、話しやすい雰囲気を作ってくださっている感じがしました。

小津…私は進路を決めるのに紆余曲折があったのですが、その過程はそのまま官庁訪問で話しました。自分が今まで考えてきたことを素直に語るのが大事だと思います。

蒲生…私の場合は二日目の省庁だったので、隠してもしょうがない部分がありました（笑）。第二志望だから一番ではないんだけど、なぜ志望しているのかを素直に語る。不安とかがあれば、それも素直に伝えるのが良いんじゃないかと思います。

小津…そういうことも含めて、自分の考えを座右の銘というキーワードで書くというだけで、特別なことを書く必要はないですね。

関心のある日本経済・社会の課題（専門分野・環境分野以外）と、国家公務員としての解決策は？

小津…環境分野以外のことを書かせるというのが、少し意外でした。皆さんは何を書きましたか？

小野…こどもの貧困について書きました。

小津…私もこどもの貧困やネグレクトなど、家庭環境の課題を書きました。民法で親権の話をやったときに、こどもの権利に興味を持ったので。

蒲生…私は政府がいかなる人材育成を行うべきかについて書きました。併願省庁が厚労省だったので、そこで聞いた話を活用して書きました。併願省庁の話だとなりやすいです。

渋沢…私も併願先である経済産業省での関心事と組つけて、産業政策について書きました。具体的には、新しい技術を社会実装するためのルール作りや知的財産のあり方などですね。皆さんは実際の面接で、この項目について深く触れられましたか？

蒲生…私は原課で触れられました。自分の意見に同意してもらって、実際に社会人教育で大学院に通って修士号を取りましたと言ってもらえました。ここまで見てもらえると思っただけだったので、驚いたのを覚えています。

小野…私は併願省庁に関連するテーマではなかったですが、官庁訪問では併願省庁について聞かれることもあるので、自分が他にどんな分野に関心を持っているのか伝わるテーマを選ぶのもいいかもしれないですね。

小野…「国家公務員としてどのような解決策が考えられるか」のところが難しかったです。すでに取り組まれていることを書いてもありがたかりだし、かといって完全に新しい政策を提案するのも難しいし。皆さんはどんなふうに書きましたか？

蒲生…そこは私も苦戦しました。何も自分で考えていないと、併願省庁の受け売りになってしまう。だから、併願省庁の話を聞いて抱いた問題意識と、そこから自分なりに考えたことをコンパクトに書きました。併願省庁の調書を縮小したみたいな感じです。

渋沢…蒲生さんの仰る通り、自分の問題意識を起点にすることが大切ですね。現状の社会のどこにボトルネックを感じているのかを言語化し、そこから解決の糸口を提示することで、借り物ではない自分なりの視点が出せると思います。

小津…解決の方向性は示した方が良いでしょう。私も具体的な解決策までは書いていなかったですが、「取り組んでいくときにここの利害調整が課題になると思う」といったようなことは書きました。

蒲生…「ここに課題があつて、私はそれに対してこういう軸で考えている」というのが見えると良いのだと思います。

渋沢…そもそも、なぜ環境省が「環境以外の分野」について問うのかを考えると、環境問題だけを単独で捉えてはいけない、というメッセージだと感じます。

以前、説明会で大臣官房審議官の方が「公害行政からスタートした環境行政は今や大きく拡大し、ビジネスなど多様な分野との掛け合わせが不可欠になっている」とおっしゃっていました。環境以外の様々な社会課題への視点を持つことこそが、結果的に環境課題の根本的な解決に繋がるのだと思います。

蒲生…それは原課面接でも感じました。脱炭素をやる上でも、最終製品だけじゃなくて川上から川下まで製造全体で考える必要がある。太陽光パネルなら発電産業全体を見なきゃいけない。こういった広い視野を持つという意味で、今の環境省の潮流を捉えた設問なんだと思います。



全体を通して気を付けたこと

小津…全体を通して、それぞれの項目は自分を知ってもらうきっかけだと思えます。それぞれについて、自分の思っていることや考えを自然体で書いていくというのが重要だし、環境省としてもそれも見たいのかなと感じました。

小野…「自然体」は1つキーワードかもしれないですね。あと、先ほども少し話題に出ましたが、「目次」のように面接官が質問しやすい「とっかかり」を散りばめておくと、面接官にとっても聞きやすいですし、自分も話す準備がしやすくて良いのかなと思います。一般的に就活でよく言われる「結論ファーストで書く」といったテクニクは、皆さんも意識しましたか？

蒲生…これは私個人の考えですが、むしろ結論ファーストじゃないほうが良い気がしています。環境省の面接では、結論にたどり着くまでの「過程」もすごく見られていて感じました。「どういうことを体験して、どういうことを考えてきたか」というプロセスを目次のように構成して、面接で一つひとつ話せるようにしておくことが大事なのかなと。

小野…民間の就活だとエントリーシートの文章だけで合否が決まることもありますが、環境省の訪問者カードはそういう性質のものではないですね。内容や書き方でインパクトを残すよりも、それをベースに対話をして、自分の思いや考えが十分に伝わることのほうがずっと重要だと思います。

蒲生…「文章の作り込みだけで落とされることはない」、これは明言できますね。

渋沢…少し話題が変わりますが、皆さんはこの訪問者カード、いつ頃から書き始めましたか？

小野…実は、割と直前に書きました(汗)。

蒲生…私も本当に提出の直前でしたね。ただ私の場合、直前に書いたからこそ取り繕う余裕がなく、本当に思っていることしか書けなかったもので、結果的に「ありのまま」を伝える要素になった気がしています。もちろん、後輩の皆さんにはおすすしませんが(笑)。早めに書くに越したことはないです。

小野…本当にそうですね。もう一度やるなら、もっと余裕を持って書いて、色々な人に見てもらいたいです。

小津…私は一気にまとめるのではなく、少し書いては寝かせながら、時間をかけて進めました。社会人の同級生にアドバイスをもらったりもしましたね。訪問者カードはあくまで「面接での対話の材料」なので、他の人と壁打ちをする中で、自分の考えや思いを自然に話せるようになっていけば良いのだと思います。

小野…思いを込めて一気に書き上げる人もいれば、人に見てもらって少しずつブラッシュアップする人もいて、準備の方方も本当に人それぞれですね。



訪問者カードを書く方へのメッセージ

小津…最後に、訪問者カードをこれから書く人にむけてメッセージをお願いします。

蒲生…訪問者カードをいざ書き始めると、「これでいいのかな?」「変なことを書いてないかな?」と不安を抱く人が多いと思います。ただ、これまで皆で話してきたように、官庁訪問で一番大事なのは「自分がどんな人間か」を伝えることなので、むしろ「ありのままの自分」であることに自信を持って臨んでほしいと思います。

小津…そうですね。絶対的な正解があるわけではないので、アピールポイントも人それぞれで良いはずです。自分のこれまでを振り返ったとき、決して華々しいエピソードや大きな成功体験である必要はないので、等身大の自分なりの経験を書いてほしいですね。

渋谷…訪問者カードの作成や面接の準備は、「具体的なエピソード」と「そこから見える抽象的な自分の価値観」を行ったり来たりする作業ですね。明確な終わりや正解がないからこそ、自分自身や周囲と徹底的に対話を重ねて解像度を上げていく過程そのものが、面接での説得力に繋がるのだと思います。

蒲生…そうですね。終わりがいいからこそ、自分で「ここを伝えたい」という力点を決めて、自分なりの言葉で語り切る事が大切だと思います。

小野…自分の中でしっかり納得感のある文章にできれば、それが面接本番での大きな安心材料になります。

自分を大きく見せすぎると逆に面接で答えに詰まってしまうので、「読み返してみても違和感がないか」「自分の言葉で無理なく話せる内容になっているか」という視点は一つのポイントになるかなと思います。



北海道 登別, 2024年10月

対談メンバー



渋沢栄一

大学では
サークル活動一筋。



茶々

民間就活のみから
公務員就活へ。



藤原鎌足

体育会所属。
民間就活も経験。

大学では何をしてた？

渋沢…皆さんこんにちは！本日は「国家公務員の就職活動と学業、課外活動の両立」というテーマで、内定者のリアルな体験談をお届けできればと思います。早速ですが、皆さんが大学でどのような活動に注力されていたか、自己紹介を兼ねて教えてくださいませんか？

茶々…はい。私はグローバル研究を専攻し、副専攻として開発学も学んでいます。課外活動ではオーケストラサークルに所属していたほか、学内のSDGs推進室という組織で、フェアトレードを広める活動の班長を務めていました。

藤原…私は文化人類学を専攻しています。この学問はフィールドワークを重視するのが特徴で、私自身も地域のスポーツチームに通い詰めて研究をまとめていました。課外活動では体育会の剣道部に所属し、4年間部活動に打ち込んできました。

渋沢…お二人とも幅広く活動なさっていたんですね。私は行政学を専攻し公共政策の効果と在り方について研究しています。課外活動ではアカペラサークルに所属し、日々練習に励んでいます。

渋沢…では、それぞれの活動の具体的な「スケジュール感」はどうでしたか？

茶々…私は4年の秋に公務員試験を受けたため、公務員試験受験から官庁訪問までは、大学の授業はほとんどありませんでした。ただ、4年の12月までは卒論を書いていたので、週1のゼミには出席していました。課外活動も、すでに引退していたので現役で活動していた頃よりは活動頻度は少なかったですね。でもオーケストラは〇として演奏会に参加していたので、演奏会前の時期は練習に参加していました。藤原さんは体育会ということで、部活動もかなりお忙しかったのではないですか？

藤原…部活は活動頻度としては週4〜5でしたが、自分が行ける曜日時間に参加できるスタイルだったので、自由に時間を使える感じがありました。ただ、時期は就活と被っていたので忙しさはありましたね。3年生の頃は、フィールドワークなど学業の方もそれなりにあわただしくしていたので、時間の使い方には苦戦していた記憶があります。渋沢さんはいかがですか？

渋沢…私のサークルも個人の裁量が大きかったのですが、私はサークルが大好きで没頭してしまつたので（笑）、就職活動の時期でも忙しいときは週7日活動していました。でも、それが逆に精神的な支えにもなっていた気がします。

就活と学業 • 課外活動との両立

就活はどんな感じで進めてた？

渋沢…皆さん、学業や課外活動に全力投球しながらの就職活動だったわけですね。ここからは、より具体的なスケジュールや、民間企業との併行について伺いたいと思います。まず、全体の流れを教えてくださいませんか？

茶々…私は就活を2回やっていて、3年から4年の春までは民間就活のみ行っていました。その過程で公務員になりたいという思いが強くなり、4年の秋に教養区分試験を受けました。ただ、公務員試験合格が分かるまでは4年で卒業するつもりで卒論も書いていました。あまり身は入っていませんでしたが、その後卒業を延期して、民間含め改めて就活を始めました。

藤原…私は3年春から少しずつ就活をはじめ、4年の春ごろまでは民間就活も並行してしていました。公務員試験は4年春の教養区分で合格しました。1、2年の頃からなんとなく将来の進路として公務員を考えてはいたのですが、選択肢を狭めたくないという思いから民間就活もしていました。振り返るといろいろな話を聞いたのはよかつた一方で、どうしても就活にかける労力が分散されてしまった側面もあったと思います。

渋沢…お二人とも民間就活もやられていたようですね。私も同じで3年のうちががつつり民間就活に注力していました。しかしそこから公務員志望であったので、3年次の秋に教養区分を受験し合格をいただき、そのあたりから官庁訪問対策も同時並行で進めました。

渋沢…試験を受けた時期は三者三様ですね。公務員試験対策について、まずは1次試験に絞って伺いたいと思います。皆さんは1次試験に向けてどのような準備をされていましたか？

茶々…私は試験を受けるか悩みに悩んで申し込みもギリギリだったので、1次試験は1ヶ月ほどしか時間がありませんでした。そこから過去問を解くなど対策を始めました。数的推理は3年生のときの民間就活の経験が活きましたね。

藤原…私は過去問を中心に広く浅く対策しました。高校時代に勉強した内容を復習することで、基礎的な知識を補いました。

渋沢…ありがとうございます。続いて2次試験対策についても詳しく教えてください。企画提案や政策議論など、公務員試験特有の科目もありますが、いかがでしたか？

茶々…2次試験は、面接カードの内容を話せるように練習したり、企画提案の内容を考えておくなどの対策をしました。

藤原…2次試験は、大学の官庁志望者コミュニティの対策会にも参加しました。それほどがっつり時間をかけてはいませんでした。やるときは集中して取り組むようにしていました。

渋沢…私も2次試験対策では対策会を利用しました。大学の公務員志望の友人を募って、面接対策や企画提案試験の練習を行いました。2次試験は入念な準備が自信につながったと思います。

渋沢…みなさん状況に合わせて適切に試験対策を行っていたようですね。ただ試験勉強だけしていればいいわけではないのが公務員就活ですね。みなさん民間就活も並行していたとのこと、民間就活についてもお聞かせ願いたいです。

茶々…試験の合格がわかり卒業延期を決めた後、12月終わりから民間就活を始めました。特に2月から4月は説明会や面接が毎日詰まっていたね。公務員第一志望ではありましたが、会社数を絞ることはせず、メーカーなどを受けていました。

渋沢…私は3年の春頃から就活をはじめ、コンサルティング・シンクタンク業界を中心に受けていました。民間企業の面接やグループディスカッションといった選考を経験したことが、公務員試験や官庁訪問で役立った上、公務員の在り方を考える上でも民間企業の視点を垣間見たことが糧になりました。

藤原…3年の春ごろから始め、インフラ企業や政府系機関を中心にみていました。4年の春まで続けていて、多少の揺らぎはありましたが、民間就活をする中で公務員の志望度が高まったこともあり、視野が広がったのはよかった反面、両立する難しさは感じていました。

渋沢…民間就活と省庁の就活の両立、難しいですよ。民間就活の選考時期と省庁の説明会時期が大きくかぶっていた覚えがあります。みなさんは省庁の就活はどのくらいの時期から本格的にやっていましたか？

茶々…実は12月の官庁訪問にも参加し、厚生労働省を訪問しました。そのため、12月は厚労省の説明会には行きました。その後の民間就活をしていた時期は、民間を優先していましたね。特に1、2月は民間就活に集中していたので省庁の説明会はあまり行っておらず、3月頃から本格的に行き始めました。

茶々…4月の終わりからは官庁訪問に全振りをして説明会に参加していました。今振り返ると、試験や民間就活の合間に、もう少し省庁の説明会に参加しても良かったなと思います。

藤原…3年夏から省庁を見始めました。8月には環境省のインターンにも参加しました。ちなみに渋沢さんともそのインターンで出会いましたね。秋から冬にかけては、他省庁も見ようと考えていたのですが、他の活動や民間就活もあり、なかなか参加できず、2、3月頃には志望を固めました。その頃からは環境省の説明会にもできるだけ参加するようにしていました。



兵庫県姫路市, 2020年9月



藤原…官庁訪問対策としては、周りに環境省志望者などはあまりおらず、基本は個人で志望動機や面接の内容を考えていました。が、直前期の説明会でまたま渋沢さんと再会して、一緒に志望動機を話し合ったりしましたね。就活生の立場で周りの仲間を見つければ大事にしたいものです。

渋沢…夏インターン！なつかしいですね！環境省のインターンは環境行政の最前線を見させていただき、たくさん知見を得た良い経験でした。官庁訪問直前に藤原さんと一緒に志望動機を敲き合ったのも記憶に新しいです。説明会参加は同じ志を持つ仲間を見つかる上でも大きかったと思います。

茶々…それは良い出会いでしたね！私は最後まで孤独だったので羨ましいです(笑)

両立で気を付けていたこと

渋沢…さてここまで皆さんの就活を公務員民間ともに伺ってきましたが、それらを両立する上で意識していたことはありますか。

茶々…とにかく優先順位を考えて動くようにしていました。時間を決めるなど特にしていなかったですが、時期によって何に重点を置くかに気をつけていました。進路が決まらないことには卒業しても意味がないと考えて、卒業よりも進路を決めることが私の中では最優先だったので、卒論を書いていた頃も試験対策や官庁訪問対策を優先して時間を使っていました。また、サークルの練習も、重要な練習には参加するなどメリハリをつけて参加していました。サークルに参加する時間もあつたことで気分転換になったように思います。

藤原…私は特に何か意識していたというわけではないのですが、優先順位をつける場面はどうしても出てきてはしまう中でも、いろいろなことを頑張りたいと思っていました。その中で振り返ると、時間をうまく使うことと、切り替えることが大切だったと思います。一日の中でも、時間を調整して、朝にバイトや部活をしたり、就活の後部活に途中参加することもありました。就活のことばかり考えるよりも、頭を切り替えて他の活動も一生懸命取り組むのが自分には合っていたのではないかと感じています。

渋沢…お二人とも、優先順位をつけながらも、就活とそれ以外の活動を全力で両立されていたんですね。私自身も課外活動の優先度は高く設定していました。

渋沢…説明会を最優先にしたのは官庁訪問直前の5月頃からで、それまではサークルの練習にも継続して参加していました。実は官庁訪問の第1クールと第2クールの合間にも、学園祭の発表に出演したほです。就活も大切ですが、それ以外の活動にも全力で打ち込むことが、結果として精神的な余裕につながり、面接でのエピソードの幅も広がってくれました。学業や課外活動と就活は必ずしもトレードオフではなく、両立させることで相乗効果を生み出せるものだ実感しています。



静岡県富士市 富士川, 2026年1月

渋沢…最後にお二人からも、両立に悩む読者へメッセージをお願いします。

茶々…私は自由に使える時間がたくさんあった点良かったと思っています。1、2年生の方には、ぜひ単位を早めに取ってしまうことをおすすめします。また、一般的ではない就活をした身としては、どんな経験もどこかで役に立つかもしれないので、あまり思いつめすぎず、今と未来のどちらも良いものにできるように、自分にとって何が大事かを考えながら優先順位を考えてみてほしいです。

藤原…人の数だけそれぞれに合ったスタイルがあるの言うまでもないと思うのですが、あえて挙げるとしたら一日の時間を有効活用することをおすすめします。特に朝の時間をうまく使えると、その日一日の気分が上がります。私は早朝にコンビニでバイトをしていました。朝が得意というわけではないのですが、予定を入れてしまえば強制的に起きられまし、一日を長く有効に使えるのでとてもおすすめです。

渋沢…本日は貴重なお話をありがとうございました。これを読む読者の方も、就活と学生生活のどちらも後悔のないよう全力で取り組んでください！今日の対談が、読者の皆さんの背中を押すきっかけになれば嬉しいです。





竹下登

省全体の雰囲気の魅力を感じ、迷った末決断！



蒲生氏郷

参加したワークショップで福島復興再生に感銘
ここで働きたいと思うように



松尾芭蕉

インターンでお世話になった担当者の方に惚れました。



藤原鎌足

三年夏から環境省を見始め、一日目に訪問。



公務員を志望したきっかけ

松尾…早速、公務員を目指したきっかけから話していきましょう。登さんはいかがでしたか？

竹下…国民のために利益だけを考えることなく働くことができるという点から興味を持ちました。民間企業も説明会に参加したことはあったのですが、この企業に自分を捧げたいと思うような企業はなく、利益追求のために働くということが合っていないのだなと思いました。また、全国規模や全世界規模の問題解決に携わりたかったため、それができるのは国家公務員しかないなと思ったことも大きかったです。

松尾…確かに世界に飛び出すことができるのは国家公務員ならではですね。留学ができる点も魅力だと思います。

竹下…確かに！私も将来的には、海外大学への留学も視野に入りたいと考えています。芭蕉さんはどんなきっかけで公務員に興味をもちましたか？

松尾…私は、大学1回生の春休みに、環境省主催の「双葉、ふたたびツアー」に参加したことがきっかけでした。中間貯蔵施設を見学する中で、自分は長期的にかつ、誰も明確な正解がわからない問題に取り組んでみたいと考えるようになりました。福島の問題はまさにそういった性質を持っていると考え、所掌している環境省に行き着いたといった感じでした。なので、環境省に入りたいたいから国家公務員を目指す、皆とは逆の順番だったように思います。鎌足君はどうでした？

藤原…はつきりと考えていたわけではないのですが、大学1、2年のころからなんとなく公務員を進路の選択肢として考えていたと記憶しています。公益に資することを考える公務員の立場の特殊性に惹かれていたこと、身近に公務員に進む先輩がいて、自分のパーソナリティにも合っているかなと感じたことがありました。

竹下…先輩などの身近な存在がいることは大きいですね。氏郷君はどうでしたか？

蒲生…大学に入る前から、人生の中で何かに自らの時間と労力を費やすのであれば、せつかなら社会や公共のためになることをしたいとぼんやり考えていました。そして、大学入学後に色々な話を聞く中で、利益の追求が目標となる民間企業は自分の性に合わないと思い、公務員に絞って就職活動をしように決めました。

民間企業の就活事情

蒲生…僕は公務員専願でしたが、他の皆さんは民間企業の就活はされていましたか？

竹下…私は全くしていませんでした。公務員一本勝負でしたね。

藤原…私も公務員を志望していましたが、就活を始めてからは、公務員を中心に考えつつも、もっと広い視野で将来の進路を考えたいという思いもあり、民間就活もそれなりにしていました。

官庁訪問中の迷いや決め手

松尾…僕も民間就活もしていましたが、あくまで第一志望は国家公務員でした。自分が何に向いているかわからなかったの、とにかくいろんな業界をみていたように思います。鎌足君は企業の業界は絞ってみていましたか？

藤原…始めは広く浅く見ていましたが、徐々にインフラ企業や政府系企業に絞りました。どちらも社会に対する公益性をもっている点、公務員と共通して惹かれた部分だったのかなと思います。民間就活をする中でも、民間企業の強みや魅力と同時に、公務員としてできる仕事やその立場の特殊性も意識させられる自分がいました。もちろん限界はありますが、民間と公務員と両方のお話を伺う機会を持ったことで、納得感を持って進路決定ができたのは良かったですね。

松尾…納得感はずごくわかります。私も「民間企業もみたけど、それでも公務員になりたい！」と言えるようになりました。それから企業の説明会や本選考を受けていた節がありました。

環境省を志望した理由

松尾…皆さんのお話を聴いていると、公務員の公共性に惹かれて志望されている方が多いように思います。数ある省庁の中で環境省を志望された理由を伺ってもいいですか？

竹下…地球温暖化などの環境問題に関心があり、環境省に興味を持ちました。環境問題は全国規模、全世界規模で取り組む必要があると思うので、それができるのは環境省だけだと考え、志望しました。

藤原…一番大きかったのは、三年の夏にインターンに参加したこと。そこで感じた環境省の職員の方々の人柄や組織の雰囲気は、非常に大きな体験でした。また、その後の説明会等に参加する中でも、環境省の理解を深めていくことが出来ました。環境行政という分野に対する関心ももちろんあったのですが、それと同等かそれ以上に環境省が掲げているビジョンや役割、一人一人の職員の方々がどのような思いで業務に取り組まれているかに対して惹かれた部分が大きかったと思います。

蒲生…一番の理由は、三年の夏に参加した福島県の復興再生に関するワークショップでした。私の母が福島県浜通りの出身で、震災後には親戚が東京の被災者用公営住宅に避難してくるなど、震災の影響を身近に感じる機会がありました。そのため、常に意識していたわけではないですが、頭の片隅には「震災」や「原発」という言葉がありました。

そんな中、環境省のワークショップで福島県の復興再生に関する話を聞き、中間貯蔵施設を建てるために土地をお借りした地権者の方々へ、二〇四五年までに土地をお返しするという約束を果たすこと、そしてその約束を果たすために、住民の方々の声に誠実に向き合おうとする環境省職員の姿を知り、自分も同じ立場でこの仕事に身を投じたいと思うようになりました。あわせて、自分自身もともと里地里山の植生などにも興味があったため、そのような自然環境を対象に仕事ができることも環境省の大きな魅力でした。



藤原…私は官庁訪問で一日目に環境省を訪問しましたが、他の皆さんは二日目に参加されています。こういった省庁と迷われ、どう意志決定されましたか？

竹下…私は農水省と迷っていました。もともと農業や地方に興味を持っていたのと、農水省の雰囲気にも惹かれていましたね。試験を受けるきっかけも農水省に入りたいという憧れもあって受けていたのが相当悩みました。

松尾…環境省と農水省を志望される方は多いですね。登さんは第二クールの時も最後まで悩まれていたように記憶しています。

竹下…あり得ないほど悩みましたね（笑）。採用担当の方に何度も相談に乗っていただいたりもしました。すごく申し訳ない気持ちもありましたが、ここまで真剣に私の話を聴いて下さるのだと感銘を受け、長く働ける職場だと確信しました。採用担当の方々には感謝してもきれません。芭蕉君はどうでしたか？



松尾…私は一日目に財務省本省にお邪魔させていただきました。環境省を一日目に設定したいけど財務省は一日目じゃないと難しいかなと考え、二日目に訪問しました。だからなのか、第一クールの二日目には絶対に環境省だと決めてしまっていました。なので、あまり迷いはなかったように思います。ただ、官庁訪問の順番は気持ちに正直になるべきだったですね。評価されるかどうかなど色々考えていましたが、結局は第一志望を一日目に据えるのが一番だなと。

竹下…後悔しない選択を、とは言いつつもうどうしても戦略的に考えてしまいますよね。・氏郷君はどうでした？

蒲生…私は、弱い立場・厳しい立場に置かれた人を支えたいと考え、厚労省と環境省を志望していました。説明会にも両方参加していましたが、どちらの政策もやりたかったのが非常に悩みましたね。5月頃まで、ほぼ同率一位といった感じでした。環境省を二日目にしたのは、芭蕉君と似ていますが、環境省は二日目・三日目も評価してくれると聞いていたからです。ですが、官庁訪問の中で厚労省とは若干のミスマッチのようなものを感じていました。

その点、環境省は、自分はどう考えているとお伝えするとそれを評価してくださったので、環境省に傾いていったように思います。様々な分野に関わり、いろんな意見を代表してグランドデザインを描ける点も環境省の魅力だと気付くこともできました。その意味でもマッチングってあるんだなと思います。

藤原…志望度や迷っていることは採用担当の方にはお伝えしていましたか？

竹下…私は第一クールと第二クール共に迷っていることを正直にお伝えしました。

松尾…私は財務省×環境省という珍しい組み合わせだったので、その理由を聞かれたりはしましたが、志望度はあまり聞かれなかった印象です。第一クールの時から、こちらが第一志望ですと言い切っていたからでしょうか。

蒲生…厚労省の採用担当の方に正直迷っていることはお伝えしていました。第二クールの一日目には、第一クールでの心境の変化みたいな部分も言っていましたね。環境省の方にも同じようにお伝えしましたが、そういった進路の悩みを受け入れてもらえる雰囲気はあると思います。

竹下・松尾…それはすごく感じました。

藤原…私は第一志望でいったので、全く迷いはなかったです。そういう意味では、あまり話すことがないです（笑）官庁訪問でもイメージしていたとおり、といった具合でした。

竹下…ちゃんと説明会に参加して、理解が深まっていたからこそですね。良い意味でギャップがない、というか（笑）

蒲生…芭蕉と登さんはイメージとのギャップやズレといったものはありましたか？

松尾…その点に関しては鎌足君と同じかもしれません。大阪での政策シミュレーションをきっかけに、関西に向向されている職員の方と複数回お話を機会をいただけました。また、オンラインでも

松尾…職員訪問をさせていただけたので、官庁訪問中にギャップを感じることはありませんでした。海外留学中の方ともお話をさせていただけたので、他省庁以上に、訪問ができる省庁だと個人的には思います。

竹下…私は環境省のことを詳しくは知らずに臨んだこともあり、採用担当の方と同じような職員の方が省内にたくさんいらっしゃるんだなと感じました。そこはすごい安心感がありましたね。インターンシップの参加有無や説明会の参加回数などで優劣がつかない、全員スタートが同じだということも好印象でした。思い返すと、私もギャップを感じなかったと思います。

蒲生…私も説明会のオープンな雰囲気がいアルのだと実感した点、ギャップはなかったと思います。説明会の雰囲気はどこまで本当なのだろうと疑ったようなこともありました。官庁訪問中も採用担当のお二人はそのまま接してくださっていたので、それもあってイメージが強くなったと思います。

松尾…それでいうと、あのお二人を採用担当にした差配がすごすぎますね（笑）

蒲生・竹下・藤原…本当にそうだと思います。

メッセージ

松尾…では最後に、進路選択を控えた受験生の皆さんにメッセージをお願いします！



ほろほろと

山吹散るか

滝の音



夏草や

兵どもが

夢のあと



竹下…私は官庁訪問を通じて、本当に死ぬ程迷った時は論理では決められないと実感しました。だからこそ、ちよつとした違和感など自分の直感を信じて意志決定して欲しいと思います。

松尾…私は憧れる人を見つけることが大事だと思っています。環境省に入りたいと思ったのも、夏のインターンシップで憧れの人に出会えたからでした。将来、こんな人になれたらいいなと思う続けたからこそ、諦めず最後まで走り抜けることができたと思います。皆さんも、就活を通して理想の社会人、カッコイイ大人を見つけてみてください！皆さんがそのような方に会えることを心から願っています。

蒲生…メッセージというよりアドバイスになっちゃいますが、自分の感じるそのまの自分をさらけ出して欲しいと思います。憧れをモチベーションに頑張ることも重要ですが、最後は「ここで働きたい」という実感を大切にしてほしいです。戦略とか評価に振り回されることがないように、自問自答のような、自分が何をしたいのかハッキリさせることは重要だと思います。私は官庁訪問の序盤に、採用担当の方から、「少し堅いところがありますね」と言われたことが印象的でした。第二クールまで自然な自分とは何かをずっと考えていましたが最後までわからず、心が赴くままにやろうと臨んだところ、「自然な蒲生さんを感じる」ことができてよかったです」との評価をいただきました。あまり気張らずにやって欲しいと思います。

藤原…皆さんのお話を聞いていて、環境省の官庁訪問での訪問者に対する優しい向き合い方は、共通して感じていることだと思います。私自身、それほど深く迷いが生じたわけではありませんでした。官庁訪問までに各種イベントを通じて、環境省の自分なりのイメージや空気感を知ることができたのが良かったと感じています。時間に限りはあるかと思いますが、少しでも実際に職員の方々とお話しする機会、お話を聞く機会を持てると良いと思います。環境省への興味に関わらず、これを読まれている皆さんが、最後まで悔いなく就職活動を終えられることを願っております。



(終)

【関連リンク集】

環境省公式ウェブサイト

<https://www.env.go.jp/>

環境省公式YouTube

<https://www.youtube.com/@kankyosho>

環境省公式X

https://x.com/Kankyo_Jpn

環境省学生向けX

https://x.com/moe_recruit

環境省学生向けInstagram

https://www.instagram.com/moe_recruit/

環境省公式SNS等一覧

<https://www.env.go.jp/guide/sns/index.html>



新潟県新潟市 朱鷺メッセ, 2025年1月

最後までお読みいただき、ありがとうございます。
皆さまの進路選択の一助になれば幸いです！

令和9年度内定者一同



沖縄県 西表島, 2026年5月

【注意】

- ・本誌記載事項は、内定者の私見に基づくものであり、環境省の意向を反映させたものではありません。
- ・使用した写真やイラストは、内定者が撮影した写真や各種フリー素材を使用しています。



愛媛県 来島海峡，2025年8月